

# ヒマラヤの氷河

特定非営利活動法人ミソクラブジャパン  
理事長 マナンダ・ル マダーブ ナラエン

ヒマラヤ山脈の氷河は"アジアの水の宝庫"とされています。サンスクリット語でヒム(him)は雪のことでアラヤ(alaya)は住みかのことです。ヒマラヤの総面積は34,659.62?で約18,065ヶ所に氷河があると言われます。そして総雪量は3,734.4796 km<sup>3</sup>あります。ネパールだけでも2,300の氷河があるのです。

世界のヒマラヤ山脈と言えばネパールを始め東はバングラデッシュとブータン、西はアフガニスタン、パキスタン、南は北インドと北は南チベットに跨っている万年雪の山々なのです。これらの氷河から流れる河はガンジス川、インダス川、ブラマプトラ川、サルウィン川、メコン川、長江と黄河で、アジアの7大河です。

ヒマラヤの東西全長は約2,400kmで、南北幅は150km~400kmあります。この雪解け水はアジアの人々にとって欠かせない大自然の大いなる恵みなのです。ネパールには100以上の雪山があり、内8,000m以上の山はエベレスト(8,848m)ネパール名サガルマータ「宇宙の母」、カンチェンジュンガ(8,586m)「偉大な雪の5つの宝庫」、ローツェ(8,516m)「南峰」、マカルー(8,462m)、チョーオユー(8,201m)「ターコイズの女神」、ダウラギリ(8,167m)「白い山」、マナスル(8,163m)「霊の山」、アンナプルナ(8,091m)「収穫の女神」があります。これらの山々は国の神聖な場所で人々の信仰の対象になり、外国人登山者、観光客からの貴重な収入源となり、雪解け水は住民の飲料水となり、水力発電にも利用され、国にとってはなくてはならないものとなっています。

最近の研究や報道により地球温暖化でヒマラヤの氷河が急激に溶け始めている事を知る事ができます。特に過去30年間、

ヒマラヤの気温上昇率は世界平均の7~8倍で、このまま上昇が続けば今世紀以内に70%の雪山が消滅するのではと予測する学者もいます。

ネパールの氷河のなかで最大の氷河はマハラングールとクンバカカルナにあるものです。東部ヒマラヤのロルパ湖は、1957年の0.23?から1997年には1.65?に拡大し、今も広がり続けています。現在、下流に住む住民や水力発電所は危機にさらされています。そしてタンボチェ村のイムジャ氷河は、毎年数十メートルの雪溶けがあります。それによって出来た氷河湖は、いつ決壊してもおかしくない状況です。調査団によると、こうした巨大な氷河湖が年々増えているのです。

クンブ氷河は、エベレスト山とローツェ山の間位置し標高は4,500m、世界最高地にある最大の氷河です。クンブ氷河もいつ氷瀑となるかと恐れられています。そしてランタン氷河も標高4,000mにあり約75?の面積をもつ巨大な氷河です。源氷は標高7,000mに及びます。東部ヒマラヤ山脈カンチェンジュンガ、ヤルン、ヌプチェなどにある氷河は標準45?ですがクンブ氷河は倍近いのです。中央ヒマラヤ山脈にある氷河は比較的小さいです。トゥクチェ氷河、リカムバ氷河、ヤラ氷河などがあります。数多くある氷河のうち現在20ヶ所は気温上昇による融解の危機にさらされています。氷河融解と氷河湖の形成は地球温暖化の証しです。2009年12月4日に世界へ地球温暖化の危機を訴える目的でソロクンブ地方のエベレスト・ベースキャンプにて、ネパール閣議会が開催されました。地球温暖化による自然破壊を防ぐため、私たちは国を超え手を取り合い、全世界的に協力し合わなければなりません。